

とめよう！東海第二原発 葛飾の取り組み

「ひろば葛飾から」代表 白倉 眞弓



「ひろば葛飾から」を立ち上げて

2018年、東京に一番近い東海第二原発が再稼働される危機感から、再稼働に反対を求める請願が茨城県はじめ各自治体で起きていました。葛飾区は常磐線沿線で東海第二原発が立地する東海村まで106kmの近さです。2011年3・11の時、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、金町浄水場の水道水から放射性ヨウ素が検出され、乳幼児に与えぬように、とペットボトルが配られました。学校、保育所、公園など除染が必要となり、水元公園はホットスポットとなりました。

葛飾区でも区議会に請願しよう、と2018年6月に有志6人が集まり「ひろば葛飾から」を立ち上げました。

請願活動とその後

「東海第二原発の運転延長を行なわないことを求める意見書に関する請願」に向けて、小川仙月さん（脱原発ネットワーク茨城共同代表）の講演会「東海第二原発を知っていますか？」を開催、街頭で呼びかけ、チラシを配り、区議会議員をはじめ、医師会、農協、商工会議所へ働きかけ、9月に2312筆の賛同署名と伴に区議会へ「請願書」を提出しました。総務委員会で代表が意見陳述しましたが、10月本会議で不採択でした。

以降、『日本と原発4年後』（河合弘之監督）を上映し、村上達也東海村前村長、鴨下祐也（以下敬称略）、遠藤大輔、大石光伸、満田夏花、小出裕章、山崎久隆、大島堅一講演会を開催しました。また、毎月「とめよう！東海第二原発」の横断幕を掲げスタンディングを続けています。

現在、葛飾区に対して「原子力防災」を策定するよう働きかけ、話し合いを続けています。

◆特集 世界と逆行、なぜ日本は原発推進か

「原発をとめた裁判長」樋口英明さんの講演会

『原発をとめた裁判長』そして原発をとめる農家たち』（小原浩靖監督）を上映した昨年11月に続き、今年5月に、元福井地裁裁判長・樋口英明さんの講演会「手に負えない東海第二原発 それでも動かしませんか？」を開催



樋口英明さん講演会で挨拶する筆者



講演会後に、亀有駅前前で参加者とスタンディング

しました。

原発の本質はシン・プル

◆ 人が管理し続けられないといけない。

◆ 人が管理できなくなったときの事故の被害は、想像を絶するほど大きい。

原発は停電しただけで、断水しただけで、大事故を起こす。核分裂を止めることには成功したが、停電し、冷やし続けられなくなってメルトダウンしたのが福島原発事故。あの時、東日本250 km圏が壊滅の危機に見舞われた。奇跡が重なり「最悪シナリオ」東日本壊滅は免れたのでした。

樋口裁判長が原発をとめた理由（樋口理論）

- ① 原発の過酷事故は極めて甚大な被害をもたらす。
- ② それ故に、原発には高度の安全性（事故発生確率が低いこと）が求められる。
- ③ 地震大国日本において、原発に高度の安全性が求められるということにはほかならない。

④ しかし、わが国の原発の耐震性は極めて低い。よって、原発の運転は許されない。

福井地裁は、2014年に関西電力大飯原発3・4号機の運転差止め、2015年に同高浜原発3・4号機の再稼働差止め仮処分決定を出しました。

手に負えない東海第二原発

東海第二原発は、1978年に運転開始から46年を超えた老朽原発です。建設時の基準地震動は270ガルでした。2011年に600ガルに引きあげられ、2024年に1009ガルに引きあげられた。それでも原発の耐震性は極めて低い。原発は地震に弱い。

東海第二原発の使用ケーブルの長さは1400kmあり、燃えやすいケーブル。不燃性に交換できるのは15%のみ。火災事故が頻発している。日本原子力発電株式会社（以下、原電）は資金がなく安全対策費が出せない。だからずさんな保守管理になる。

さらに、大量の高濃度放射性廃液を持つ「再処理施設」が隣接し、複合災害のリスクは計り知れない。

東海第二原発は人口密集地に立地。30km圏に94万人

が住んでいる。東京駅から116kmの近さで事故を起こせば、4000万人首都圏は壊滅してしまう。

水戸地裁は2021年、原発の本質を踏まえ「避難計画に実効性がない」と、原電に差止め判決を出しました（その後、東京高裁で控訴審中）。

現在、東海第二原発は、防潮堤工事に重大な欠陥が判明し、工事は中断している。

真実を伝え続け、原発をなくす

樋口さんは、原発が事故を起こすと、予知しなかった事態が、次々起こり手がつけれない。その危険を回避するには、原発をなくすしか方法がない。このことを伝え、広める。私たちの責任は重い、と話を結びました。

講演冒頭で、昨年一月の能登半島地震にふれ、震源地・珠洲に原発が建っていないと、日本は助かった。28年間に及ぶ反対運動で原発立地を撤回させた人々に、私たちは救われたのだ、と強調されました。

講演会終了後に、常磐線亀有駅前で、樋口さんと参加者で「とめよう！ 東海第二原発」のスタンディングを行ないました。（しらくら まゆみ）